

## 第6回

# ユニバーサルキャンプ in 八丈島 報告書

2010.9.11 ~ 9.13



2010年 11月



特定非営利活動法人(NPO)

ユニバーサルイベント協会



## ユニバーサルキャンプ開催の意図

ユニバーサルキャンプは、ダイバーシティ（Diversity＝多様性、すべての人が含まれる）の考え方に立ち、年齢や障がいの有無にかかわらず、参加者へ、そして社会全体へ向けて、「みんなが一緒に生き生き暮らせる社会」への意識を喚起し、行動を身につけることによってユニバーサル環境の普及をめざしています。

そのため、豊かな自然の中で、キャンプという日常生活より少し不便な環境を味わいながら、誰もがそれぞれできることとできないことがあることに気づき、お互いに対等な関係で協力しながらサポートし合うという経験を通して、一人ひとりが尊厳を持つ対等な関係としての自立・自律をめざすとともに、その輪を広げていきたいと考えて実行しています。

## 感謝

ユニバーサルキャンプは  
多くの方々のお力添えにより実現しました

### 【後援】

国際ユニヴァーサルデザイン協議会  
一般社団法人日本イベントプロデュース協会  
公益社団法人日本フィランソロピー協会

### 【研修協賛】

岩瀬薬品株式会社  
株式会社岡村製作所  
コクヨ株式会社  
三友プラントサービス株式会社  
株式会社ゼネラルパートナーズ  
東京地下鉄株式会社  
パナソニック電工株式会社  
東日本トランスポート株式会社  
富士通デザイン株式会社

### 【協賛】

株式会社縁エンタープライズ  
大塚製薬株式会社  
小岩井乳業株式会社  
JESCOホールディングス株式会社  
ジャパンデータコム株式会社  
株式会社スニード  
竹内 敏晃  
DBA（デザイン・ブレーン・アソシエイツ）  
東京海上日動火災保険株式会社  
東京キリンビバレッジサービス株式会社  
東京通信電設株式会社  
東明興業株式会社

### 【協賛 （続き）】

日本通運株式会社  
有限会社フルフォードエンタープライズ  
マイクロソフト株式会社  
株式会社マルハニチロホールディングス

### 【協力】

NPO阿波グローバルネット  
NPO江戸川手話通訳者協会  
株式会社JTB首都圏  
NPO法人ちょんこめ会  
日本ブラインドサッカー協会  
八丈町の皆さん  
ピアサポート株式会社  
株式会社ロゴスコーポレーション  
NPO野外活動教育振興会  
ヤマト運輸株式会社

### 【共催】

東京都八丈島八丈町  
株式会社丹青社  
株式会社UDジャパン

### 【主催】

NPOユニバーサルイベント協会

※敬称略、50音順とさせていただきます。

# 報告 1

## メインプログラム

- 事前研修
- キャンプ開始・開村式
- ダイバーシティ・きっかけコミュニケーション
- ユニ・キッチン
- ダイバーシティ・どっぷりコミュニケーション
- ユニバーサルスポーツ（ユニスポ）
- ユニボン（ユニバーサル盆踊り）
- 気づきの振り返り・閉村式
- 事後研修

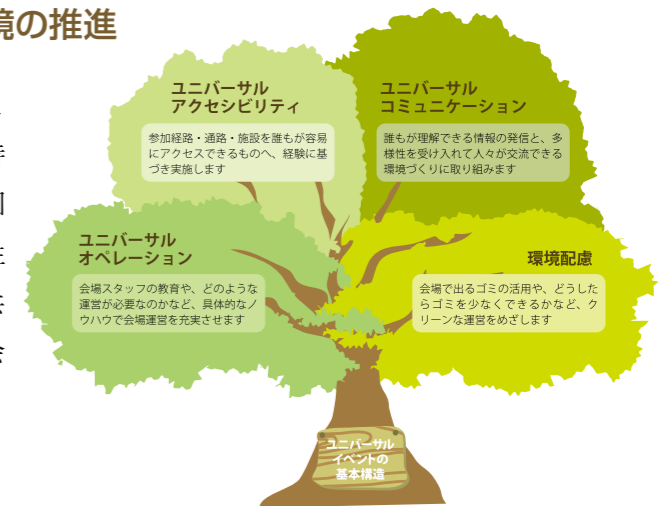
## ユニバーサルキャンプの概要

開催日程	2010年9月11日（土）～13日（月）
開催場所	八丈島 底土キャンプ場・その他
参加者数	124名＝企業研修参加者、一般参加者、スタッフ 26名＝八丈島ちょんこめ作業所 総勢 150名 ユニボン総勢約 210名（八丈島の方々約 60名）
主催	NPO ユニバーサルイベント協会
共催	東京都八丈島八丈町 株式会社丹青社 株式会社UDジャパン

## キャンプ運営のコンセプトとキーワード

### ■ ユニバーサル環境の推進

ユニバーサル環境とは、さまざまな特性を持つ人々が年齢・性別・国籍に関係なく、その特性の違いを認め合い、共に生き生き暮らせる社会環境のことです。



### ■ CSRの根っこにはノーマライゼーションがある

これからの企業理念には、企業が社会的責任（CSR = Corporate Social Responsibility）を果たしていくという姿勢の明確化がますます求められてきます。

そのCSRは、ユニバーサル環境が基本に据えられていることが大前提であり、その実現の切り口としてユニバーサルデザインの推進があるのではないかと考えています。

## 事前研修

キャンプでより多くの気づきを得るための土台づくり。ダイバーシティの理解と受容のための社会的背景と多様性を学びます。



## 講義とサポートの基本

午前中の講義は、  
 ・ダイバーシティの重要性  
 ・現在の日本の状況  
 ・企業にとっての重要性  
 ・障がい者の普遍性とダイバーシティを  
 理解する  
 という内容で進められました。

その後、実際に障がいを持つ講師による指導で、車いす使用者、見えない人への理解とサポートの基本を学び、午後の実習に備えました。

## アイマスクでランチ

さて、そろそろお腹もすいてきた!? お待ちかねのランチです。と思ったら、ランチタイムも気づきの時間。ペアを作って1人はアイマスクを着用し、見えない状況でお弁当を食べてみます。

「2時の角度に唐揚げ。3時の角度にサラダ……」時計の文字盤になぞらえた説明に耳を澄まして、さあいただき

きます!  
 説明に夢中になってなかなか食べられないチーム、上手に食べることができなくて、おかずをこぼしているチーム、真剣だからこそのろんなハプニングがまた楽しい、笑い声とおしゃべりあふれるランチタイムとなりました。

## 屋外へ出かけ実習

午後からは、「聞こえない人へのサポートの基本」から。聞こえない講師による手話での講義です。筆談、ジェスチャー、空書きなど、見えるコミュニケーションのコツを学びました。  
 手話で盛り上がる人たちの中に、手話わからない人がポツンと入ったらどうなる? そんな「逆障がい体験」をした参加者から「今わたしが情報障がい者になっていった!」との声。  
 「障がいとは医学的な問題ではなくマイノリティの側に起こるものなのです」と講師の三原さん。  
 そしていよいよ屋外へ。車いすに乗ったり、アイマスクをつけたりしながら街へ出発。

まずはアイマスクをつけて自動販売機に挑戦。飲み物の種類を端から全部説明する丁寧な人、「なに系が飲みたいですか?」とちょっと要領のいい人など、音声だけの世界に戸惑いつつもみな必死にコミュニケーションをとり合いました。

車いすに乗ると本当によくわかるパリアの多さ。あちらこちらでちよつとした段差が行く手を阻みます。階段での移動方法も体験し、最後は自力走行で汗びっしょり。手にはまめができました。不便さを体感し、サポートの難しさを感じながら、室内ではわからない多くことを学びました。

リーダー研修と  
今日一日の「気づき」

班行動が基本のキャンプでは、例年、研修参加者の方々に班のリーダーをお願いしています。

今後、日本社会が必要とされる「支援型リーダー」の説明と、キャンプでの役割などについての話がありました。

その後、今日一日での「気づき」をグループワークでまとめ、各自のキャンプでの目的を目標設定シートにまとめます。「外に出るとこんなところが不便なのがよくわかった」「とにかくコミュニケーション!」など、たくさん気づきを共有することができました。

その後は、キャンプ参加説明会が行われ、多くの参加者との出会いが始まりました。

企業参加者 29名

【日時】 2010年8月27日(金)  
10:30~18:00

【場所】 UDジャパン研修室

【講師】 内山早苗、岡村道夫  
松村道生、三原毅

【進行】 飯塚佳代

【カリキュラム】

1. オリエンテーション
2. 講義
3. サポートの基本と実習
4. 屋外でのサポート実習
5. グループワーク
6. リーダー研修
7. まとめ



# キャンプ開始・開村式

もっと当たり前前に、誰もが生き活きと社会参加できないかなあ。ユニバーサルキャンプは、そんな思いから生まれました。



## プログラムの流れ

- 1日目
  - ・開村式
  - ・ダイバーシティ・きつけかけコミュニケーション
  - ・ユニ・キッチン
  - ・夜のダイバーシティ PART1
- 2日目
  - ・朝のユニバーサルウォーキング (ユニウォーク)
  - ・朝の集い
  - ・ダイバーシティ・どっぶりコミュニケーション
  - ・ユニバーサルスポーツ (ユニスポ)
  - ・ユニボン (ユニバーサル盆踊り)
  - ・語りを聴く・見る会
  - ・夜のダイバーシティ PART2
- 3日目
  - ・朝のユニバーサルウォーキング
  - ・朝の集い
  - ・テント片付け
  - ・気つきの振り返り
  - ・閉村式

### まずはテント張り

1便組の50人が、ユニキャン本拠地底土キャンプ場に到着しました。まずはみんなでテント張りです。スタッフからテント張りのレクチャーを受けたら、さあ初めての共同作業です。最初は遠慮がちだった参加者たちも、「そっち持って！」「引っ張って！」「せーのっ！ それっ！」いつしか息もぴったり合って、テントもベッドの組み立ても、あっと言う間に完了しました。2便参加者を待つ間、海からの風を感じながら、お昼を食べたり、のんびりおしゃべり。「この大変なテント張りを体験してこそこのユニキャン。いよいよ始まるね」と1回目から参加のスタッフは感慨深げです。

### 開村式

2便参加者も無事到着し、開村式が始まりました。ユニキャン村の内山村長の挨拶で第6回のユニバーサルキャン

プが始まります。

司会進行の幸多朗さんとジエームズさんが、八丈町観光課の方々の紹介をして、島の方々に支えられているユニキャンを実感。今年も感謝の気持ちでご挨拶をお聞きしました。

温かい島の方々と、4人の手話通訳者を含む15人の裏方、そしてまだ緊張気味ながら、ドキドキワクワク顔の主役のみなさんが揃って、さあユニキャンの始まりです。今年はどうな気づきと感動、自身の変化をお土産にできるでしょう。

### 感謝の思い

もっと当たり前前に誰もが生き活きと社会参加できないかなあ。もっと多くの、さまざまな特性を持つ人と友だちになって、一緒に活動して、多様性を実感してほしい。

その気づきを自分の生活や仕事に生かしてもらえたら、きつと素敵な世の中になるはず。

ユニバーサルキャンプは、そんな思いから生まれました。

今年も、たくさんの方の方、地元八丈島の方、本当に多くの方々のお力添えにより、第6回ユニバーサルキャンプが実現いたしました。

心より感謝申し上げます。



# ダイバーシティ・きっかけコミュニケーション

ダイバーシティとは、多様性の享受。つまり違いを受け入れること。誰もが違って当たり前。まずは、その「違い」を知りましょう。



## まずは基本から

3日間を安心安全に過ごすため、まずはアテンドの基本を学びます。キャンプ場を3つのエリアに分け、4班1グループになって、体験を中心としたレクチャーを受けました。講師はもちろんその特性を持った当事者たちです。

## 肢体障がいブース (車いすサポート)

町役場からお借りした車いすに実際に乗って、キャンプ場を移動してみます。段差を越えたり、スロープを下りたり、お互いが安全に移動するコツを学びました。「スロープ怖い!」「芝生の上は動きにくい」と言っている横を、車いすのユースケさんが自走でスーッと通って行きます。

「人を運ぶ責任の重さを感じた」「意外と難しいけど、たぶんコツがある」「声かけが大切」

## 視覚障がいの部屋

ペアになって1人がアイマスクをし、自分のテントを探しに行きます。アテンド役に導かれながら、恐る恐る歩き出すも、芝生に足を取られてへっぴり腰のチームもチラホラ。触地図(詳細25ページ)やトイレへの誘導ロープ(詳細26ページ)に触れてみて、講師たちの感覚のすごさを実感した人もたくさんいたようです。

「信頼関係が絶対必要」「安全なアテンドに集中すると無口になってしまふ」「状況説明って意外と難しい」「コミュニケーションが大事」

## 聴覚障がいの部屋

2人の講師による手話でのレクチャーです。聞こえなくて困ることや、補聴器についての話がありました。音声を使わないコミュニケーションの方法やコツ、手話もいくつか教わりました。「コミュニケーションしたいと思う気持ちが大切。逃げないで!」今年も30人近い聴覚障がい者の参加があり、聞こえ方もさまざま。皆真剣に耳を(目を?)傾けていました。

アテンドの基礎を学んだら、心のバリアが少し低くなった気がしました。「知る」ということは大切ですね」



ユニ・キッチン  
一緒に作り、一緒に食べる。チームの強力な接着剤となる恒例の夕食づくり。ちょんこめさんも参加して大賑わいです。



### 何ができるか、 班ごとのお楽しみ

牛肉・豚肉・鶏肉・魚介、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ、ネリ（八丈島のオクラ）など、具材が決まったら、班の命運をかけて（？）じゃんけん勝負で、具の争奪戦。

今日会ったばかりの仲間たち。誰が何をする？ 味付けは？ 切る大きさは？ ホワイトボードにきっちり役割表を作る班もあれば、あうんの呼吸でパツと決めて早々に各自所定の場所に散る班もあります。

今年も猛烈な勢いで、具材をガンガン切っていく全員の松村さん。同じく全員のエリンギさんも「タマネギを切っても涙が出ない！」という特性を活かして、野菜切りを担当。一人でできることはサポートしない。夕食作りに夢中になりながらも、大切な気づきがきらりと光ります。

「私は火の様子見てくるね！」「隣の班から醤油借りて来て〜！」楽しくスピード感あふれるキッチンには、自然とジェスチャーや手話も飛び出します。

さあ、できあがり。味はどうか？ カレーにハヤシライスに豚汁……。いろんなスパイスを加えたり、隠し味にワインを使ったり。底土キャンプ場にいいにおいが充満！ みんなで作った料理ですもの、どれもおいしいはずですよ。

大盛りご飯にたっぷりルーをかけて、いったただっきま〜す！

みんな話して夢中になって、いつもよりたくさん食べちゃうから不思議！

### 心を開ききつかけばへり

食べ終わったら大切な後片付け。この頃には、チームワークが芽生えています。みんなで協力し合って手分けして行えば、そう、片付けもめちゃ早い！

そしてユニキャンも6回目。言われなくてもゴミゼロ、全部お腹の中へ。ニンジン、ジャガイモの皮はたわしでこすってむかない。タマネギの皮は？ そう、炭火の中に入れちゃいました。見事な連携プレー。数時間前に初めて会ったとは信じられない仲間との空間の出現。これぞユニキャンなのです。

一緒に作り、一緒に食べる。これぞ生活の原点。特性の違いを超えて笑顔満開の右往左往のユニ・キッチンでした。



## ダイバーシティ・ユニバーシティ・ユニバーコミュニケーション

聞きたいこと何でも聞いてみましょう！ 多様性を知り、他者との違いに触れたとき、参加者は何を発見するでしょう。



## 違いからの発見

誰もが違う、誰もが何かを持っている、みんな違うのだから、障がいも特別なことではない……。

そんな観点から、ダイバーシティ・ユニバーシティプログラムは生まれました。

音・光・動き・関わり・八丈・UD、それぞれ名前をついた6つのブースで、見えない人、聞こえない人、手足の動きに不便がある人、八丈島で暮らす人など、さまざまな特性を持つ人たちとのコミュニケーションにどっぷりつかってみよう。

障がいのことって聞きにくい。失礼じゃないのかな……。けれど、お互いわかっているなければ、心から関わることはできません。まずは知ること。それがスタートラインです。

大賀郷園地の広くてきれいな芝生の広場に、オレンジのタープテントがはためいています。これからこのテントの下で、さまざまなドラマが生まれます。芝生において、眩しい青空、頬に



あたる海風……。自然と心がほぐれて、なんでも聞ける気がしてきます。

「二人ひとりみんな違う。その違いが面白い。そう思えたとき、初めて相手を尊重し、思い込みのない、きちんとお互いの立場を認めながらのコミュニケーションができるようになるのではないだろうか。」

そして、商品やサービスシステムに対しても、従来とは違った発想ができるようになり、新たなイノベーションへとつながっていくのではないかと思っています。

## ミッション

「今日の皆さんのミッションは『よりよい世界をつくり始めること』です」進行役のアダムさんの手話を交えたスピーチで、このプログラムはスタートしました。

「長年、松村さんは『目が見えない』という道歩んできました。三原さんは『耳が聞こえない』という道を、岡村さんは『歩けない』という道歩んできました。そして3人もが、ひとつの同じ道歩んできました。その道の名前は『のんべえ』と言います」思わず吹き出すみんなにアダムさんは続けます。

「でも、実はこれが大事なポイントなのです。それぞれがさまざまな特定の道を知っている、ということなのです。」

僕の場合はイギリス人という道を53年歩んできました。在日外国人を29年、そして、武道の一つとして23年歩んできた道は、結婚道という道です。ここに集まっている皆さんが知っている道を合わせれば100万を遥かに超える数になるでしょう。

皆さんは『日本人』という道歩んできた人が多いと思います。相手の気持ちを考えて、つい遠慮して聞きたいことを我慢することがありますよね。しかし皆さん、ここでは『ユニバーシティの村人』という道を優先し、相手が歩んできた大事な道をしっかりとリサーチして『よりよい世界』をつくるための材料にしてください」

さあ、ダイバーシティ・ユニバーシティの始まりです。大自然の中で語られる当事者たちの飾らない言葉は、来訪者の胸にしみていきます。

暑い中、長時間でも「もつと聴きたかった！」の声が多いこのプログラム。これからもキャンプの目玉として、毎年変わらず、でも進化しながら進めていきたいと考えています。



# 1 音の部屋

## 聴覚障がいの方の話を聴く部屋

仕事、生い立ち、戦争体験、趣味、ろ文化……。さまざまな切り口から、いろいろな話を聴いて、聞こえないとはどういうことかを少しずつ理解する。

「メールは便利だけど、表情とか感情とか、文字だけじゃ伝えきれないことがある」「情報がないと人の真似をするけど、そんなのはちっとも面白くない。やっぱり自分でちゃんと理解したい」「情報過多の時代。聞こえる人はそれに翻弄されることがあるのでは？ 心の目を耳をもつと磨いて」

両親が手話に否定的だったというコナンさんの話を聴いて、「私のために手話を学んでくれてる両親に感謝の気持ちでいっぱい」と大学生のチカさんが言いました。



# 2 UDの部屋

## UD分野や、障がい者雇用の分野に尽力されている方が主人の部屋

UDとは、すべての人が特性の違いにかかわらず、一緒に利用できる安全で快適なモノ・建物・空間・サービスをデザインするという考え方です。もちろん、形あるものだけではなく、その活動や考え方も含まれます。

カラーUDの活動をしている伊賀さんは、色覚障がい体験キットをたくさん持参し、詳しく説明してくれました。

「色覚障がい者がこんなにたくさんいるとは知らなかった。今後自分の仕事に少なからず影響しそうです」とデザイナーの男性が感想をもらいました。



# 3 関わりの部屋

## 障害者手帳を持っていない人が主人の部屋

役者のご主人と、2人の子どもの子育てに奮闘中の働く主婦ユキさん。ご長男の病气(BWS)や障がい者就労支援のお仕事について話してくれました。「いつか私たちの仕事が必要ない社会になったらいいんだけど……」

「落ち込んだり元気になったりの繰り返しだけで、趣味を見つけたら少しづつ外へ出て行けるようになった。今年はユニキャンにも挑戦」と言うのはうつ病治療中のかよ子さん。

知的障がいのお姉さん、アメリカ人のハーフの娘さん、という多様な家族を持つ守屋さん。「ダイバーシティが当たり前」のここ(ユニキャン)は僕の居場所」と、今年スタツフとして参加しました。



# 4 動きの部屋

## 肢体に不便さのある人の話を聴く部屋

車いす使用者だけでなく、手足にマヒがある人も主人の部屋です。

足にマヒのあるアヤさん。「電車です立っているのは辛いけど、妊婦さんやお年寄り、他の人だって具合が悪いのかもと思うと、席を譲ってとはなかなか言い出せない」

電動車いすの樋本さん「実は自分の生まれ育った家はバリアだらけ。でも、そこで家族とともに育ってきた。バリアフリーじゃないとダメっていうのはちよつと言い訳になるのかも」

「何センチから段差になるの？」という質問に「人それぞれだから一概には言えないですね」と車いすのユースケさん。



# 5 八丈の部屋

## 八丈島について語ってもらおう

暖かい八丈島の温かい方々に支えられて無事第6回を迎えることができたユニバーサルキャンプ。この島のこと、島の人をもっと知りたい！

今年、エコ・アグリマート(地熱を利用した農産物の共同販売所)の菊池さんに島の歴史や産業について語ってもらいました。アロマヒーリングサロン癒香の由木子さんには、大阪から移り住むほどの島の魅力とパワーを、英会話講師のキムさんには島の子どもの様子などをお話ししていただきました。

都会の生活に比べて、ゆっくりと流れる島時間に癒やされた八丈の部屋でした。



# 6 光の部屋

## 視覚障がいの方の話を聴く部屋

「色をどうとらえているの？」という質問に、「本当の色はわからないけれど、心を感じた色を想像しています」と、さくらさん。

子どもの頃お墓参りで義眼をなくし、みんなで捜し回ったという爆笑エピソードや、指先の感覚の鋭さを利用して、手触りを追求した高級タオル作りの開発に携わっている、という話など、簡単には想像できない世界をわかりやすく説明してくれる主人たちの話術にも驚きます。

「おたふくにかかって翌朝起きたら失明していた。でもそれでも生きていく人間ってタフですよ」という川島さんの強さに一同感激。



## ユニバーサルスポーツ（ユニスポ）

みんなでスポーツを楽しむためにはどうしたらいい？ 各班の団結力と、みんなの個性が光るプログラム。



## ルールは班の数だけ

ユニバーサルスポーツとは、障がいや年齢にとらわれず、そこにいる誰もが一緒に楽しめるスポーツを提案し、実施することです。

例えば野球もサッカーも、公式のルールにとらわれず、経験によるレベルの差も関係なく、メンバーが平等に楽しめるように、新しいルールをつくったり、得点方法を変更したりして楽しみます。

今年は、ポートボールのルールを基に、3つの条件でユニスポに挑戦です。3つの条件とは……

- ・ブラインドサッカーボールを使用
- ・全員が一度は必ず触ること
- ・味方のキャッチをもって得点が入ったことにする

## みんなで楽しむために

ポートボールは、チームでボールをパスし合いながら得点を競う、パス

ケットボールに似たスポーツです。パスケットボールとの大きな違いは、リングにシュートするのではなく、台の上に乗っている仲間にパスをし、キャッチできれば得点になる、という点です。

ブラインドサッカーのボール（転がすと音の出るボール）を使って、班ごとにみんなで楽しめるルールにアレンジし、発表します。

班のメンバーの特性はさまざまです。聞こえない人、見えない人、車いすの人、球技が苦手な人、力が強い人、弱い人、すぐやりたい人、じっくり考えたい人、遠慮がちな人……。

メンバーの特性をお互いにわかり合うというのを土台として行うプログラム。すでにあるスポーツと違い、考える過程、実際に行う過程のどちらもが大切な要素なのです。

大賀郷園地の美しい芝生に車座になって作戦会議をしたら、実際にボールを使って試行錯誤を繰り返します。ポートボールに別のスポーツの要素を組み合わせたチームや、全員が手をつないで行うチーム、対戦型で敵の設定まで考えたチームなど、さまざまなユ

ニスポが生まれました。

講評を担当するユニバーサルスポーツ・コーディネーターたちも、頭を悩ませるほど甲乙つけがたいルールがずらり。

ユニスポを通して、お互いの理解とチームワークの深まりを実感したひと時でした。

## 初の試み、ユニウォーク

チームの団結力が高まったところで、次は勝ち負けのないスポーツを楽しみましょう。

植物園や八丈高校などをのんびり歩いて、コミュニケーションを楽しみます。あちらこちらに仕込まれたQRコードを携帯電話で読み解きながら、クイズの答えを考えながら歩きます。ピジターセンターで展示物を見たり触れたり、ソフトクリームを食べながらのんびりおしゃべりする班も。

お互いのことだけでなく、鳥のことも少しずつ知り、好きになっていく時間。暑くて疲れもピークながら、ユニキャン度が一番深まったプログラムでした。



## ユニスポ・コーディネーター誕生！

ユニバーサルイベント協会で養成・認定しているユニバーサルスポーツ・コーディネーターに今年も多くの人がチャレンジ！ そのレポートの一部をご紹介します。

## ●コーディネーターの役割とは？

渡邊（裕介）さん  
「スポーツII競争競技」といった固定概念を一旦脇に置き、スポーツにおけるパラダイムシフトを起こさせることも含み、多様な人同士がよりよく交流できるように「スポーツ（遊び）」を創造し、場を調整することであると考える。

阿南さん  
「参加者全員が情報を共有する」「勝ち負けではない」「達成感」をいかに与えられるか」「安全」、この3つに配慮しつつ、自身もその場を楽しむことが大切だと考える。

## ●コーディネーターとしての目標は？

田原さん  
自分の地元や学校でのユニスポイベントの実施を通してその楽しさを伝えていきたい。さらに深めるためにスポーツクラブをつくり、他のユニスポクラブやイベントなどの情報交換をし、知識を身につけて活動していきたい。



## ユニボン（ユニバーサル盆踊り）

島寿司、明日葉、シヨメ節、おいとこ、八丈太鼓…。島の人たちと一緒に歌って、踊って、楽しんで、笑顔がはじける最高の島時間。



## 目移りするほどの屋台ブース

島文化、食べ物、お酒、温かい八丈島の皆様…。数えきれない魅力にあふれる八丈島。ユニバーサルキャンプを開催するにあたって八丈島の方々の協力が必要不可欠です。

「キャンプ参加者と地元の方との交流を深め、八丈島の特産品をいっぱい味わえる場が欲しい」。そんな願いから、毎年、八丈島の方々と一緒に盆踊りで交流を深める、ユニバーサル盆踊り、略してユニボンが開催されています。

会場入り口に設営された屋台では、連合婦人会の皆さん、朝市会の皆さん、ちよんこめ作業所の皆さん、山田屋、あしたば加工所の皆さんのご協力で、おいしいもの、ステキなものがたくさん並びました。

島寿司、トビのすり身揚げ、明日葉のかき揚げ、ネリや島唐辛子など、普段はなかなか食べられないものがズラリ。明日葉ジュースも大人気でした。「今年はどれにしようかな」。食べ

所の皆さん。

「第九」と手話歌「まあるいいのち」を披露してくださいました。手話歌はキャンプ場でも教えてもらったので、最後は会場全員での大合唱、公民館いっぱいにもんなの歌声が響きました。多くの方々のご協力で今年も大変盛り上がったユニボン。誰の顔にも笑顔があつて、島の皆さんの温かさをジーンと感じた夜でした。

## 島の人にも見てほしい

毎年キャンプ初日に行っていたプロの語り部川島昭恵さん（全盲）による「語りを聴く会」。昨年から手話語りとのコラボ「語りを聴く・見る会」となりました。ぜひ島の人にも見てほしい、との願いから、今年はユニボンで行うことになり、手話語りにはコナンさんが名乗りを上げてくださいました。語りが始まった瞬間から、それまでの熱気がウソのように静寂に包まれ、会場の全員が2人に釘づけとなりました。（詳しくは28ページ）



## メイン会場もヒートアップ！

今年もちよんこめ作業所の皆さんの「さんさ踊り」で華々しくスタートしたメイン会場。舞台のまわりにゴザを敷き詰めて、思い思いの場所でおいしいものを頬張りながら、島の伝統芸能を楽しみます。

連合婦人会の方々が、浴衣に黄八丈の帯で登場すると、盆踊りムードが一気に高まり、町村合併30年を記念した「八丈音頭」と「炭坑節」で踊りの輪が広がります。加茂川会の皆さんには、「八丈太鼓」に続き、珍しい「足踊り」もご披露いただきました。そのかわいらしい動きに拍手喝采。「おいとこ（皿踊り）」では、待ってましたとばかりに我も我もと踊りの輪に加わり、お皿をカチカチと鳴らしながら独特の踊りを楽しみました。

フラダンスチーム「コウリマナニエ」の皆さんの華やかな衣装と素敵な笑顔には会場もうっとり。最後は大フラダンス大会と化しました。

大トリはやはり、ちよんこめ作業



## 事後研修

キャンプでの体験や気づきを整理し、今後の仕事にどう活かすか。気づきを具体化することを目的に行います。



## 気づきの共有

キャンプからちよどひと月ぶりの仲間との再会に、和やかなムードの中で始まった事後研修。

グループに分かれたら、キャンプの感想や気づきを出し合ってみましょう。

・障がいの有無にかかわらず、人それぞれ個性やペースがある。

・たくさんサポートをしよう！と意気込んで参加したが、逆にいろいろとサポートを受けた気がする。

・特別視は不要だとわかったら、声をかけやすくなった。

## 気づきを企画へ

## ワークショップ1

キャンプの気づきを付せんに書いて模造紙に張り、意見交換しながら、気づきをまとめ、発表します。

## ワークショップ2

課題の照射と企画のポイントの講義。次にワールドカフェ形式で企画づくりのワークショップ。リーダー以外



は席を移動しながら、みんなで自由にアイデアを出し合います。チームごとに企画を競うのではなく、情報を共有し合って全員でより良いものをめざします。

## ワークショップ3

さまざまなアイデアにインスパイアされたら、企画構想図を使ってひとつの商品・サービスへ落とし込み、10分程度のプレゼンをします。

実現のための条件を抽出したり、反対意見を想定し、対策なども考えます。カッコいいもの、お洒落なもの、実現できそうなサービスやシステムなど、見事な企画ができました。

## 結果

## ●1班

『転ばぬ先のフリース&ニッカポッカスリム』

着衣式の危機感知センサー。服に内蔵されたバイブレーターが障害物や危険を感知し知らせます。ソーラー電池内蔵ですが洗濯も可能。国内有名衣料量販店にて販売することで、誰もが気軽に購入でき、お洒落をしています。で、安心安全が保障されます。

## ●2班

『スカウター型情報端末』〜ユニバーサル社会の実現!!』

片耳のヘッドフォンと片目のレンズを装着することで、さまざまな情報を

手に入れられる装置。GPS機能で位置が確認でき、センサーが危険を感知。使用者に合わせてカスタマイズできるため、障がいの有無にかかわらず使用可能です。

## ●3班

『サポートポイントシステム』〜関わり共通化』

サポートを求めると、サポートしたい人を結び付けるシステム。サポートリング（特性で色分けされた指輪）やサポートポイント（サポートが欲しい人が立つ場所）を使って、お互いを確認します。サポートが終了したらもらえるポイントコイン（行政から支給）をためて商品券をゲットしよう。

## ●4班

『みんな電車が好きになる』

情報弱者に優しい駅環境をつくるためのシステム&サービス。

優先席付近のドア上に付いたモニターでサポート方法をコラム風に紹介。また降車駅やエスカレーター的位置などを、ケータイでお知らせするサービスなど。色覚障がい者にも配慮した色を使ったプレゼンでした。

どの班も知恵と工夫の活かされた素晴らしい出来でした。6回目を終え、毎年進化を続けるユニバーサルキャンプ。参加する個人が変わっても、思いや気づきは受け継がれていると実感する事後研修でした。



参加者 25名

【日時】 2010年10月8日（金）

10:30 ~ 17:30

【場所】 UDジャパン研修室

【講師】 内山早苗

【進行】 飯塚佳代

【カリキュラム】

1. 気づきのまとめ
2. ワークショップ1
3. ワークショップ2
4. ワークショップ3
5. まとめ

## 触地図

開村式で説明のあった触地図、皆さん覚えていますか？そして、それに触れてみましたか？

昨年に引き続き、筑波大学附属盲学校職員の飯島さんが作成して



くれました。八丈島の位置と形、キャンプ場全体図と、各サイトの説明が立体的な線と点字で表されています。墨字(文字)も入れていただき、みんなに便利なキャンプ場の地図となりました。

## 点字のしおり

今までの第1回～第4回ユニバーサルキャンプでは視覚障がいの方への情報保障として、“しおり”や“報告書”のテキストデータは作成していたものの、点字のものは、専門的な技術などから作成できていませんでした。

しかし、昨年、「点字のしおり、作りましょうか」と参加者の視覚障がいのある兵藤さんからのうれしいお申し出。今年は不参加にもかかわらず、昨年に引き続き兵藤さんが点訳データの作成をしてくださり、触地図も作ってくださった飯島さんが出力&製本を引き受けてくださいました。

視覚障がいの方には事前にテキストデータをお送りしていますが、「いつでも読める点字はやっぱり便利」と感謝の声が寄せられました。ご多用の中の作成、本当にありがとうございました。

## ちょんこめ作業所の皆さん

ユニキャンに毎年ステキな彩りを添えてくださるちょんこめ作業所(八丈島の福祉作業所)の皆さん。いつも私たちを「こんにちは！」と元気な挨拶で迎えてくれます。

ちょんこめさんと言えば、さんさや手話歌、かわいいTシャツなど、元気で華やかなイメージですが、公共トイレの掃除やアルミ缶リサイクル、植物公園の花壇の手入れなど、裏方のお仕事もいっぱいされています。

底土キャンプ場のトイレがキレイなもの、ちょんこめさんのお陰なのです。



## チーム 8jo

八丈島は実はとってもサイバーな島。“チーム 8jo”という大情報網があり、宿泊施設やお土産屋さん、飲食店はもちろん、スーパーや学校の先生、役場までもが毎日情報発信しています。ツイッターでつぶやかれたそれぞれの情報は観光協会ブログに掲載されます。ユニキャンスタッフが発信した情報も拾ってくださり、畑中特派員が何度も取材にいらしてくださいました。

<http://ameblo.jp/team8jo/day-20100918.html>

## 八丈電設センター ジュンさん

キャンプ場に電気が灯るのもこの人がいるから。八丈育ちのちょっとシャイな小栗隼さん。

第1回から影の存在として自転車を駆って登場、今ではユニバーサルイベント協会八丈支部長として島の重要な情報発信源です。



# Thank you

今年もたくさんの方のお力とご協力に支えられ、キャンプを行うことができました。ありがとうございました。

## 島弁

スーパーあさぬまさんに、八丈島のおいしいところがギュッと詰まった仕出し弁当があるらしい……。

大量生産は難しいというウワサのお弁当を、130食も作っていただきました！

飛び魚の南蛮漬けや白子煮、はんば海苔とかき菜の二種類の混ぜご飯、明日葉の肉巻きやゴマ和え、明日葉ブラウニーのデザートなど……。珍しいメニューに会話も弾み、暑さでバテ気味だったことも忘れて、みんな笑顔で完食しました！ごちそうさまっ!!



## 八丈町産業観光課の皆さん

八丈島の温かい雰囲気そのままに、ユニキャンを陰でガッチリ支えてくださる役場の皆さん(写真にはユニキャン村長と実行委員長も)。島内のコーディネート、備品の調達、管理や搬入など。毎年この地で開催できるのも、この方たちがいてこそ。今年も本当にお世話になりました。ありがとうございました。



## 朝食のパン

おいしい！と絶賛の嵐だった朝食の焼きたてパン。ちょんこめ作業所のお隣にある、精神障害者共同作業所フェニックス「やまばハウス」さんでは、作業プログラムの一環としてパンやお料理を作っていて、昨年からは朝食パンをお願いしています。

あしたば粉を使ったものや、ハーブやチーズ、くるみいちじく、オレンジピールが入ったものなど6種類を130人分。

今年もまた夜中から作り始めてくださったのかなあと思うと、ジーンと胸いっぱいになるおいしさでした。



# 報告 2

## お楽しみ

- 語り
- 朝のユニウオーク
- 夜のダイバーシティ



## 伝え方いろいろ

さまざまな特性を持つ人が交じり合い  
コミュニケーションするユニバーサルキャンプ。  
今年も柔軟な伝え方があちこちで生まれました。

### PC 要約筆記

手話よりも文字情報を希望する聞こえない人も多くいます。今年も班ごとに時間を決めて、PC 要約筆記に挑戦してもらいました。

初体験でうまくいかない人が多い中「大丈夫、大丈夫。意味はわかるから、誤字はそのままです」と優しくアドバイスをしてくまきさん。

「私たちだって、助けてもらえばかりじゃなくて、誰かの助けになりたい」と、全盲の方や手話がわかる聞こえない人たちも、手話を読み取って要約筆記してくださりました。

皆さんご協力ありがとうございました。

### 筆談

阿波グローバルネットさんより、コミュニケーションボード（C o B o）をいただきました。これは磁性シートを使用した筆談器で、ビビットなオレンジ色にグリーンのパッドがとってもオシャレ。軽くて薄いので、携帯するのにぴったりです。ウォーキングの時など、C o B o を持って歩いている姿をあちこちで見かけました。どうもありがとうございました！

### 手話通訳

手話通訳は誰のため？それは聞こえない人のため、そして、手話で伝えることができない聞こえる人のため。

みんなのための手話通訳は、今年も朝から夜までフル稼働。

ユニボンでは4人揃って浴衣で登場。サービス精神たっぷりの江戸川手話通訳者協会  
の皆さん、ありがとうございました。



### プロジェクトX

プロジェクトXとは、ユニバーサルキャンプの向上を図る秘密組織です。

今年のテーマは「ガイドロープその3」。

「トイレって一人でいきたいときもある」全盲の川島さんの言葉をきっかけに「昨年ガイドロープ作りを取り組んでいます。昨年は、「行きはOK。でも自分のテントに戻るのが難しかった」ということで、そこをクリアするのが今年のミッションです。

昨年同様、テントサイトからトイレの横まで腰の高さにガイドロープを引き、各々のテントの前のロープにリボンをつけて印を作りました。「夜中のトイレを気にせずお酒が飲めて、実際にひとりひとりでトイレに行けた！」と翌朝うれしいご報告が。ご協力いただいた多くの皆様、ありがとうございました！



# 語り

## 奇跡のコラボ

川島昭恵さん  
プロの語り部として「夢の鈴」を主催し、全国各地で語りの公演を行う。映画「津軽」に出演、第一回わたぼうし語り部コンクール入選、ルパン文芸会員など、活躍は多岐にわたる。ユニバサルキャンプには第1回から参加。



ユニキャン恒例の川島昭恵さんの「語り」。今年は島の人にも見てほしい！という事で、ユニボンで行うことになり、コナンさん（高桐尊史さん）が手話語りに名乗りをあげてくださいました。全盲の川島さんとろうのコナンさんによる、奇跡のコラボ「語りを聴く・見る会」となったのです。

お題は「ちいちゃんのかげおくり」。戦火に散る少女のせつない物語です。

舞台の壁に、コナンさんが描いたちいちゃんの顔と、影おくりをする家族のイラストが張られ、コナンさんが、川島さんの手を引いて舞台上に上がりました。

ゆっくりとした川島さんのタイト

ルコールに合わせ、あうんの呼吸で静かに手話語りを始めるコナンさん。それまでの熱気がウソのようにスーッと静寂へと切り替わり、会場中の目と耳が2人の世界に引き込まれます。川島さんの指が点字台本をなぞり、独特の声音でかわいらしい少女や、やんちゃなお兄ちゃんをつくり出すと、コナンさんがそれを引き継いで自在に動かしている、そんな不思議な錯覚にとらわれます。

「初めて体験する不思議で素晴らしい舞台！」

「手話はわからないけど、心で感じた！」

会場中の感動と涙を誘った奇跡のコラボは、絶賛の拍手の中、静かに幕を下ろしました。

高桐尊史さん  
NPO 手話技能検定協会理事、手話講師。企業のための聴覚障がい者研修や手話指導、大学・専門学校での手話講師および講演を務める。

「デフ・パペットシアター・ひとみ」人形劇団の旗揚げに関わり代表を務め、パントマイム・サインマインなど幅広い演技技術を持つ。

表現力豊かな手話に定評があり、ドラマ主演俳優の手話指導も行うなど、現在も幅広く活動中。



## 早く起きた朝は、ウォーキング！

朝6時起床のユニキャン。起きたらすぐにウォーキング。

せっかくの八丈島、二日酔いもなんのその、張り切って早起きして、真っ赤なハイビスカスが咲いている道をウォーキングしましょ。

昨日の夜、サイレントバーで習った手話で早速挨拶。「元気？」って手話でどうだったかな。「おはよう。昨夜はたくさん飲んだね」「何時に寝たの？」「一緒に歩こうよ」自由参加プログラムだから、班以外のメンバーとも交流できる楽しいひと時。みんなの表情も、すっかりリラックスモード。

ウォーキングは底土キャンプ場周辺を約45分かけて行い、参加者の約半数の60名近くが参加しました。

こんな時、見えない人は自分から知り合いに声をかけるのが難しい。だから「声をかけてくれるととてもうれしく、ありがたい。」

「あ、面白いオブジェがあるよー！」

「打ち捨てられた船があるよー」「周りの人がきれいな海や八丈富士を写真に撮っているよ」などと、風景やみんなの様子を言葉で伝えます。

キャンプ場を出て、海沿いの道もみんながゆっくりと歩く。車いすの人、緩やかな坂道だったらのんびり、らくらくと進む。段差や、ちよつと急な坂道があったら「手伝いしましょうか？」の一言。

心地よい風とやわらかい日差しを浴び、きれいな風景を見ながらのウォーキング。恋愛の話や仕事の話など、何げない雑談の中から、深い気づきが生まれます。

朝の爽やかな空気とみんなの思いやりに包まれたひと時。今日もがんばろう！って気持ちになれる。

「そろそろお腹がすいてきた」ウォーキングが終われば、おいしい朝食が待っている。

うん、やっぱり早起きは三文の徳だね！

# 朝のユニウォーク



# 夜のダイバーシティ

## バー・イン・ザ・サイレント

ここでは、音声会話禁止のコミュニケーションバー。しゃべっちゃいけないのに、伝わるの!? ハイ。手話に文字イラストに、豊富な品揃えで皆様をお待ちしております。ゆっくりと話したり、ボードに文字や絵を書いてみたり。マスターが簡単な手話も教えてくれます。

「伝えたいことが伝わった。最高にうれしくて気持ちいい瞬間!」手話ユーザーの立場が逆転していた

静けさの中にも「伝えたい」エネルギーにあふれるバー。人の輪が途切れることはありませんでした。



## バー・イン・ザ・ダーク

目隠したあなたを、見えないマスターが暗闇へと誘うバー。声を、音を、いつもより深く感じる空間では、「見えない状態だとして、お酒の味がより感じる」「視覚情報がない分、他の感覚が研ぎ澄まされる」と参加者の声。

カクテルのオーダーを受けたのに、同じバケツに混ざりこんでいたビールを出してちょっとしたハプニング! でも「参加者の皆さんとの交流がとても楽しかった」とマスター。

時には「目隠しをした聴覚障がいのお客さん」が訪ねてくることも。「文字を手のひらに書いてみたが、コミュニケーションが成り立たず大変だった。来年への宿題をもらった!」



## ★お楽しみイベント

### スターウォッチング

何度見てもその美しさに吸い込まれそうになる、八丈島の満天の星。今年も山梨で「星の語り部」として活動中の河西さんが、星の解説をしてくれました。

「ほんのり赤色が濃いこの星は……」「三角形になっているのわかりますか?」

心地よい星のガイドに聞き入りながら、空を見上げると、だんだんとはっきり見えてくる星の数々。

i Padの星のアプリも使いながら、星の名前もチェックして、しばしの鑑賞タイムです。

「あ! 流れ星!!」「こっちも!」次々と出現する流れ星に静寂はやぶられて、今度はみんなで願い事タイム。

「来年も八丈島にこられますように」「またこの星空に出会えますように」皆さんちゃんと願いました!\*

## ENGLISH Bar

その看板どおり、英語でしか話してはいけないお店。外国人のマスターが、ここでしか飲めない魔法のお酒を用意! だったら絶対行かなきゃ!

英語に自信がある人は、マスターとスムーズに、のっけからハインションスピーキング。

自信のない人は「?」や「うつむき」がちになりながら(笑、でもユーモアあふれるマスターに次々と話しかけられて、カタコト英語が飛び出してくる。さて、隣の人にも自己紹介。「えーと、What? だっけ? いや、Where do you live?」いつもなら簡単にすましてしまっ挨拶も、じっくり相手と向き合った。

相手の目を見て、単語を聞き逃さないようによく聞いて。そのうち声も大きくなって、なんだか心もオープンになっていく。不思議なバーとなりました。

## Bar 葵

底土キャンプ場の中心に看板をドンと構えて、Bar 葵が今年も堂々のオープンです。

今年、新マスターが用意したアイテムは、キャンドル。星空の下でロマンティックな雰囲気……という、マスターからの心憎い演出でしたが(知っていましたか? 参加者の皆さん!、八丈島の強風でキャンドルの火は灯らず。その代わりに酒やおつまみの種類はかなり豊富! 明日葉のおひたし、くさや、島らっきょうなど。島ごころあふれる食材を肴に、話の輪が広がるつながる!



## アンケート結果

(原文より一部抜粋)

### ◆参加のきっかけ

- ・友人に誘われた。
- ・第2回に参加しても楽しく、また参加したいと思ったから。毎回参加したいと思いながらチャンスを選び、今回ようやく参加できました！
- ・障がいのある方とコミュニケーションをとりたくて友人に話したところ、このキャンプを教えてくださいました。
- ・4年前、友人に誘われて以来参加させていただいています。
- ・ユニキャンに参加して3回目です。1回目と2回目は学生でしたが、今年には社会人としてという風に変えたいと考えているので参加しようと思いました。
- ・ユニバーサルデザインに関わる卒業研究をするため。または、あらゆる人々に対して、私のできることを知るため。
- ・仕事上、障がいについて、障がい者が働きやすい職場について知りたかったから。
- ・WEBサイトをみて興味を湧きました。

### ◆印象に残ったこと

- ・年齢や社会的地位の垣根を越えて交流でき、友達がいっぱいできたこと。
- ・参加者がこのキャンプを楽しみ、自然に何かを得て帰ろうという雰囲気が感じられたこと。
- ・たった3日間しか過ごしていないのに、これほどまでに人と仲良くなることができ、協力しあえたこと。
- ・障がいを持った方が非常に前向き

求めるのではなく、不便さを感じた時に、自分が何をすべきかを考えることが重要。自分で難しければ仲間と、それで足りなければ他の班に要請するなど。全部が便利な世の中では学びは少ないと思う。

・くじ引きで班の話し合いの進行役を決めるなどしたら、普段あまり発言できない人や、発言することに躊躇してしまう人も発言でき、互いに良い刺激になったのではないと思う。

・ごみの出し方、出す場所をもっとわかりやすくした方がよい。

### ◆欲しいプログラム

- ・昼寝タイム、フリータイム、選択プログラム。
- ・「劇とかダンス」などで、もう少し時間をかけてチームで取り組める内容があると良いと思いました。
- ・ユニバーサルスペースを班ごとにデザインすること。審査も行う。
- ・パフォーミング大会・私の主張大会。この人こんな特技があるんだ！とか、この人こんなこと考えてるんだ！とか、いろいろな気づきがあると思う。
- ・ユニバーサルデザインの商品を紹介する、またはユニバーサルデザインの商品開発の話し合いをする。
- ・八丈島の海や山を利用したプログラムがあればよいと思いました。

### ◆ユニバーシティー・どっぷり

- ・何でもあり、と気づいた。伝える気持ち、受け取る気持ちが大事だと思
- ・盲者、ろう者、その他みんながリアルタイムで意思疎通することって難しいなあ……と思った。
- ・聴覚障がいの割合が大変多く、手

で明るかったところ。

・グループ作業。コミュニケーションをとるによりグループでの一体感を感じられた。

・1年目素晴らしいと思ったのは良い仲間がいたからこそ感じたが、今年もただただ素晴らしい仲間がいた。ユニキャンはあの素晴らしい人間関係を構築する環境が素晴らしい。おそろく誰とやっても同じように感じると思われる。

・同じ班の人と行動をとるとし、コミュニケーションを深めたこと。最初と最後では表情が大きく変わったこと。今までの自分と違う自分を感じたこと。

・視覚障がい者のPC要約筆記の技術と文字変換の方法。自分はタイピングも正確にできないので来年までにはスムーズなタイピングを身に付けたい。

・うつの人と接したこと。通常は、何日も続けて接することはないから。班のみんながすごく明るく平等に話してくれていたこと。

・青い海・明け方の強い風(テントが飛ばされそう!)冷たいシャワー。そして何よりみんなの明るさでした。

・障がいのある人たちと、食事づくり、テントで一緒に生活したこと。綺麗な星空と、トイレへの道を示す白いロープ。

・日常生活で、障がい者と生活を共にすることがほとんどないので、全てが新鮮な体験だった。

◆ユニ・キッチン

・かまどでの火おこしから始めた夜ご飯。争奪戦もなかなか面白いアイデア

・話ができないとコミュニケーションに入れなくて孤立してしまうことが。

・もう少し、視覚障がい者に対しての情報保障面に工夫ができればいいなあと思った。

・誰に対しても、ゆつくりと丁寧に話すことは、場の雰囲気をよくする傾向にあると感じた。

・同じ班に手話ができる人がいると頼ってしまうことで気配りが減り、返って聴覚障がい者が蚊帳の外になってしまう場面が結構あった。そういう人(自分の会社の人を含め)に気配りを思い出させるには、聴覚障がい者は発言する際に声を出さないなど、何かアクション(聞こえないというアピール)を起こしたほうがいいのか?と感じた。

・要約筆記ブースは班の近くにあってはうがよいと感じた。

◆自分自身の考え方や行動が何かわりつつある

・相手を理解したい気持ちを、その相手にきちんと伝えようと思う。

・手話を覚えて聴覚障がい者と話をしてみたい、と思った。

・人とコミュニケーションをとるには、受け身でなく自分から発信していくことで円滑になると学んだので、苦手な会話を自分からしていくことになった。

・障がい者との共同生活を送り、健常者との境目(ボーダー)がなくなっていくことを感じた。もっと交流を深めていければと思う。

ア。火の管理がうまくい人、そうでない人は、見た目にはわからないし、そこにはハンディキャップは関係ないと思った。

・視覚障がい者が包丁を使い上手に野菜を切っていたのが驚いた。

・班のみんなと協力して料理を作り、いろいろな立場の人が協力しあうことができた。

### ◆ダイバーシティ・どっぷり

・普段は聞いていいの躊躇してしまような話も聞け、より理解を深めることができた。

・自分とは違う障がい者の日常生活で困っていることや対応について聞くことができた。まだまだ障がい者が暮らしやすい社会的インフラや配慮が十分ではないと感じた。

・いろいろな人が私の体験していない世界の話をしてくれたこと。

・障がいを持っていてる方や、外国の方からの生の声を聞いて良かった。

・各部屋のセッションで、いろいろな障がいを持った方から、通常直接聞けないこと(生い立ち、精神面等)を、生の声で聞けたこと。うつの従業員が会社にもいるので、うつの人のトークはとても参考になった。

### ◆ユニバーサルウォーキング

・将来性を感じた。八丈島の大自然の中で、宝探し(かなにか)をグループでやるのが面白かった。

・初めての企画だったので面白かった。携帯電話を使うというルールも斬新。

・グループの結束がより深まった。

### ◆ユニバーサルスポーツ

・班全員が一丸となれたところで非常

・街中に困っている方がいたら、アテンドなど、声をかけることができると思う。

・キャンプに何度も参加するうちに、障がいがある自分に誇りを持つようになった。「聞こえない自分。障がいをもっている自分」だからこそ、ユニキャンに参加し、いろいろな人と出会えたのだ、と。

・障がい者が生活する上で、どこに不都合を感じるのか、直接教えてもらったので、今までにない視点を活かしていきたいと思う。

・社内でユニバーサルデザインの普及を図らなければ、と思った。例えば、毎朝の朝礼。聞こえない人がわかるように改善案を出していることと思う。

### ◆町の印象は

・とても良かった。役場の人と夜は一緒に飲みたかった。

・みなさんに、歓迎していただいていることを実感。町の方がプログラムに参加されたり、空港にお見送りに来てくれたり、うれしかった。このキャンプの趣旨や、これまでの実績、そして規模によるものなどと思う。

・鳥寿司と鳥弁当がおいしかった。

・雰囲気、人、空気が景色全てがよかった。ハイビスカスやストレリアの花がきれいだった。

・ちよんこ作業所の方々が非常に生き生きとしていて力をもった。明るく素朴で、純粋な人柄に、心洗われた。

・とても温かく、自分たちの島を大切に思っている感じが伝わってきた。

・八丈島空港でのチェックインがもう少しスムーズにできれば、と感じた。

・キャンプ場は海に近く、また綺麗な

に強い力を感じた。

・チームそれぞれの個性を相互に理解した段階でのプログラムであったことが大きい。全員が強く参加し、コミュニケーションをとりながら短時間で発展していく様子は障がい者を超えて組織がなされる可能性を感じさせた。

・誰でも参加できて、かつ楽しめるゲームを考えるのは初めての経験でとても難しかった。他のチームの案には良いアイデアだと驚かされた。自分たちでオリジナルの遊びを考えるのは、子どもの頃に戻ったよう。ただ、あの頃できていたことが、今はちよんと億劫で、疎遠になって自分、遊びを創造する感覚を取り戻すプロセスが面白かった。

・各班がよく考えさせたこと。結果、よく話し合い、班の結束が強くなった等、良いことがたくさんあった。

### ◆ユニバーサル盆踊り

・八丈島の方々と盛り上げられた。交流を深めることができた。

・語りが素晴らしい！感激した！踊りも良かったが、島の母の味をみんなでもいろいろ楽しめて良かった。

・八丈の方との会話。面白い話が多かった。僕らの拍手を送っていただいたお婆さんトリオもいた！

### ◆夜のダイバーシティ(Bar)

・班の垣根を越えて交流ができた。飲み会を通じて仲良くなった人も多かった。

・障がいのある無にかかわらずその場にいた全員が、楽しくお酒が飲めたのが楽しかった。

・いろいろな人といろいろな話ができる

### ◆八丈島に望むこと

・キャンプ場だった。

・身勝手かもしれないですが、今のまま、自然を大切にしてほしい。

・空港のお土産売り場が不便。車いすでも、盲導犬が一緒でも、ゆつくり買物ができるような配置やレジシステムがあるといいですね。

・キャンプ場にお湯の出るシャワーがあること。または近くに入浴施設ができるとうれしい。

・地元の子どもたちとも、もっと交流したい。

・初めての八丈島だったが、また行きたいと思った。もっと宣伝、マーケティングをうまくして、観光ビジネスを増やしたいと思う。

・できれば、ユニボンの会場がもう少し広く、暑さ対策ができていけば更に良いと感じました。

・コンビニが無いので不便を感じました。

### ◆このキャンプで感じたことや意見

・みんなが自分を受け入れてくれて、私も抵抗なくみんなを受け入れられた。ユニキャンには不思議な力がありますね。

・昨年に引き続き2人の子どもと参加。気持ちが少し乗り遅れ気味だった長男をサポートしてくれたのは、長男の班の方々、同じテントで寝てくれたちよんこ作業所の方でした。二男にとっては、霧吹き(体温調整用)で、遊びながらも、サポートする側になれたことも貴重な体験だったと思う。皆様、ありがとうございました。

・特例子会社に勤務しており、障がい者については、ある程度わかった気で

・Bar in the tank で目隠し状態で会話をしたが、自分へ話が向けられるとその人が浮かび上がり話が途切れるとその人が消えるように感じられる、周りに人がいるのはわかっているのに孤独感もある不思議な体験だった。

### ◆その他

・朝のユニウォーク。動きながら周りの人のペースや特徴など、把握できるいいチャンス。同時に自分もマイペースで参加でき、いろいろな人と会話できた。景色を「五感」で味わうこともできた。

・振り返りの時間に、みんなでの発表となるよう話し合ったこと。手話による発表。

### ◆改善したほうが良い点

・2日目のプログラムが非常に忙しく感じた。炎天下の中、体を動かすことが多く、参加している自分自身が疲れてしまい、サポートがおろそかになってしまった。

・ユニスポはもう少し身体を動かせるような構成にしたほうがよい。ルールが複雑だったので、もう少しシンプルだとうい。最終的にチームで対戦ができるとうい。

・ユニウォークは競争させず、多様な人との行動の中で多くの気づきを得られるような内容にしてほしい。

・去年のように選択プログラムがあれば良かった。(しかし、振り返ると、ユニバーサルスポーツとユニバーサルウォークがあったから、チームワークが深まったような気もする。)

・「不便さはある」という説明が最初にあると良かった(昨年があった)。参加者は、運営側に対する配慮を

・いたが、日頃の会社での上司と部下の関係ではなく、一人の間としてフレキシブルに生活を共にする中で、新たな気づきや個性、能力に驚く場面もあった。このキャンプを通じて、改めてダイバーシティの面白さ、それが大きなパワーとなることを体験した。

・リーダーの体験はダイバーシティの中で、リーダーシップ力の醸成に大変有効であると思った。

・誰もがフラットに関わり合い、役割を持ち、貢献し合う。これを如何に自分の周囲でも同じことをするか。簡単なはずなのにこれがなかなか難しい。今年はこちらでも実現したい。

・何度参加しても、新しい気づきがあった。面白く感じます。ただ、体力的にきつくなってきたかな? 来年はスタッフとして参加してみようかな……? と思っています。

・とてもよく考えられているプログラムで、目的はダイバーシティであるので、リピーターより、より多くの人に参加してもらって、理解を深めていく、文化を創っていくことだと思っています。

・今回初めて参加し、手話も自分の名前しかいえない状態で八丈島に入ったのですが、最終日には多少の会話ならできるようになりました。

・あまり知らないから……? という理由で関わらないなにもったくない! と、改めて感じました。このキャンプで出会ったいろいろな人、いろいろな考え方を大切に、また来年ももっとたくさんの方に気づける自分になりたいと思う。このような貴重なイベントの企画・運営に関わった方々、八丈島の方々、そして参加者全員に感謝したいです。ありがとうございました。

## ユニバーサルキャンプは これからも毎年続いていきます……

ユニバーサルイベント協会では、ユニバーサルキャンプや、その他さまざまなイベントと一緒に盛り上げていってくれる方を募集しております。スタッフとして、また協賛や賛助などで一緒にイベントを創り上げてみませんか？皆様のご参加・ご協力を心よりお待ちしております。

### ユニバーサルキャンプ支援パートナー

主に企業などで、ユニバーサルキャンプの実現・普及を以下の面から支えてくださる方

- 資金面での協賛 1口 50,000円より
- 物品・サービス等の面での協賛
- 研修協賛（ユニバーサルキャンプ参加、事前・事後研修） 1人 150,000円

### 会員パートナー

正会員：本会の目的に賛同し、活動に参加していただける法人・団体または個人

- 法人 100,000円
- 個人 12,000円

賛助会員：本会の趣旨に賛同し、活動に協力していただける法人・団体または個人

- 法人 50,000円
- 個人 7,000円

### 協賛・協力パートナー

主に個人、NPO、企業などで、以下の面についてご協力いただける方

- 計画から実施運営までのノウハウの提供、人的支援協力
- 活動を広げるためのネットワーク連携企画・活動などの実施

### お問い合わせ

NPO ユニバーサルイベント協会

〒108-0075

東京都港区港南2丁目12番27号

イケダヤ品川ビル3F

- TEL：03-5460-8858
- FAX：03-5460-0240
- E-mail：info@u-event.jp
- URL：http://u-event.jp/

### 交通のご案内

- JR各線「品川駅」徒歩8分
- りんかい線「天王洲アイル駅」徒歩12分
- モノレール「天王洲アイル駅」徒歩8分

